

#2 キリストを模範として知り、経験する

(メモリアルデー特別集会) 2019/7/8-14

I. もし私たちがキリストを模範として知ろうとするなら、キリスト・イエスの中にあつた思いを、私たちの内側でも思いとすべきです:

A. 私たちはキリストの思いを私たちの思いとし、自分自身を開いて、「この思い」を私たちの内側でも思いとする必要があります。**ピリピ2:3** 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙虚な思いで、互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。4 おおの自分自身の長所だけでなく、他の人たちの長所にも目をとめなさい。5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい。

1. 5節の「この思い」は、3節の思うことと、4節の目をとめることを指しています。**2.** 謙虚な思いは、自分本位の野心と虚栄に相對します。これは、私たちの生まれながらの謙虚であってはならず、キリストの謙虚でなければなりません。

3. このような思い、このような考えは、キリストがご自身をむなしくし、ご自身を低くした時に、キリストの中にあつた。

B. 「この思い」を持つために、私たちはキリストの心の深みの中で、彼の優しい内側の感覚の中で、彼の考えの中で、彼と一である必要があります。

C. キリストの思いが私たちの中にあるとは、この思いが生きたものであることを意味します。実は、キリストの思いは、キリストご自身です。なぜなら、キリストのパーソンは、彼の思いの中で現されるからです。

II. 私たちはキリストを経験するために、彼が模範であることを知る必要があります:

A. **ピリピ2:5~9**において、パウロはキリストが模範であることを提示しています。私たちは、この模範が私たちの中へと注入されることを必要とします。**ピリピ2:6** この方は、神の形の中に存在されますが、神と等しくあるのを固守すべき尊いこととは見なさず、7 かえってご自身をむなしくし、奴隷の形を取り、人の姿になられて、

B. クリスマン生活の模範は、神・人である救い主です。彼はご自身をむなしくし、ご自身を低くし、そして神によって高く引き上げられ、栄光が現されました:

1. 主は神と等しくありましたが、神と等しくあるのを固守し維持すべき尊いこととは見なませんでした。そうではなく、主はご自身をむなしくし、自分の所有しているもの(神の形)をわきに置きました:**a.** 主は肉体と成ったとき、ご自身の神聖な性質を変えませんでした。**b.** 彼は外側の表現を、神の形から奴隷の形へと変えただけでした。

2. 主は、「人の姿に」なられました:**a.** 「神の形」は、キリストの神格の内側の實際を暗示します。「人の姿」は、彼の人性の外側の現れを示します。**b.** 彼は外側では人として、人々に現れました。しかし、彼は内側では神として、神格の實際を持っていました。**c.** キリストは人性の状態の中へと入り、人としての有り様で見いだされました。

3. キリストはご自身を低くして、死にまでも、すなわち十字架の死に至るまでも従順になられました:**a.** ご自身を低くすることは、ご自身をむなしくすることのさらに進んだ一歩でした。**b.** キリストがご自身を低くしたことは、彼がご自身をむなしくしたことを明らかにしました。**c.** 十字架の死は、キリストの辱めの絶頂でした。

4. 御子は、喜んで自分自身をむなしくし、創造された人と成って、権威に対する服従を表しました:**ピリピ2:8** 人としての有り様で見いだされ、ご自身を低くして、死にまでも、しかも十字架の死に至るまでも従順になられました。

a. 主イエスは服従することを心に定め、死に至るまでも服従の道を歩きました。**b.** 主は「御子であられたのに、

受けた苦しみによって従順を学ばれました」。ヘブル5:8 彼は御子であられたのに、受けた苦しみによって従順を学ばれました。:**(1)** 神は、キリストが死ぬべきことを定め、そしてキリストはそれに従いました。**(2)** 彼は死の苦難を通して、この従順を学びました。**c.** 生涯を通じて服従した主は、彼の服従の命を私たちに与えてくださいました。信者の従順は、キリストを従順の模範とすることの結果です。

5. 主は、極みに至るまでご自身を低くしました。しかし、神は彼を最高峰へと高く引き上げ、そして、「あらゆる名にまさる名」を彼に与えました。

III. 今日の主の回復の中で、私たちの間には緊急の必要があり、それはキリストを私たちの模範として経験することです:

A. 私たちの模範であるキリストは、客観的であるだけでなく、主観的で経験できる方でもあります。模範を立てた方、またご自身が模範である方は、今や内住する神として私たちの内側で活動しています。**B.** 私たちの生活のための内側の模範であるキリストの原則とは、たとえば私たちが最高の地位の最高の標準を持っていたとしても、私たちはそれを固守すべきではないということです。

C. 私たちが生きる必要のあるキリストは、人の生活におけるキリスト、特にご自身をむなしくし、ご自身を低くしたことにおけるキリスト、また神と等しくあるのを尊いこととして固守しなかつたことにおけるキリストです:**ピリピ1:20** そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。21 なぜなら、私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。

1. 私たちの中には、自分自身をむなしくし、自分自身を低くする命があります。**2.** この命は、何かを尊いこととして固守せず、常に進んで地位と称号をわきに置きます。

D. 私たちは、十字架につけられたキリストを私たちの模範として持っています。この模範は、私たちの内側の十字架につけられた命です:**ガラテヤ2:20** 私はキリストと共に十字架につけられました。生きているのはもはや私ではありません。キリストが私の中に生きておられるのです。そして私は今、肉体の中で生きているその命を、私を愛し、私のためにご自身を捨ててくださった神の御子の信仰の中で生きるのです。**1.** **ピリピ2:5~8**におけるキリストの辱めの段階は、満ち満ちた方法で生かし出された、十字架につけられた命の各面です。

2. キリストが十字架の死に至るまで従順であったことは、十字架につけられた命が満ち満ちた、また絶対的な方法で生かし出されたことでした。**3.** 私たちはキリストを生きる時、十字架につけられた命の模範である方を生きます。

1 **コリント2:2** なぜなら、私はあなたがたの間ではイエス・キリスト、しかも十字架につけられたこの方のほかは、何も知るまいと決心したからです。

4. 私たちは十字架につけられた生活をすることによって、復活の力を経験することができます。**5.** 地上の最高の生活は、十字架につけられた生活です。私たちが十字架につけられた生活をするときはいつでも、神は私たちを復活の中へともたらします。**ピリピ3:10** キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

6. 私たちが、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、十字架につけられた命としてのキリストを、私たちの日常生活の模範とするとき、キリストは私たちの日常生活の中で高く上げられます。**ピリピ2:9** それゆえに、神もまた、彼を高く引き上げ、そして、あらゆる名にまさる名を彼に与えられました。

**Crucial Point①:キリストの思いを自分の思いとするために、
毎朝、パートナーと共に御言葉を読み、祈り読む**

OL1:私たちはキリストの思いを私たちの思いとし、自分自身を開いて、「この思い」を私たちの内側でも思いとする必要があります。**OL2:**キリストの思いが私たちの中にあるとは、この思いが生きたものであることを意味します。実は、キリストの思いは、キリストご自身です。なぜなら、キリストのパーソンは、彼の思いの中で現されるからです。

ピリピ 2:3 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙虚な思いで、互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。4 おのおの自分自身の長所だけでなく、他の人たちの長所にも目をとめなさい。5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい。

ピリピ人への手紙の主題はキリストを経験することです。この書は 1 章で、まず私たちがイエス・キリストの霊のすべてを含む満ちあふれる供給を必要とすることを告げています。…私たちがキリストを生きる手段はその霊の満ちあふれる供給です。これに続いて 2 章は私たちに、キリストを経験することについてもう一つの点を与えています。私たちがキリストを経験する第二の手段は、キリスト・イエスにあつた生きている思いを私たちの中でも思いとすることです。この宇宙には生きている思い、パウロが「この思い」と呼んでいる思いがあります。この生きている思いは、あなたが自分自身を開き、彼を入れるのを待っています。あなたがキリストを模範として彼に倣うのは容易ではありません。ここの重点は、私たちが経験するキリストが非常に実際的で便利であるということです。

パウロの文書の中で彼はときどきキリストの柔和とキリストの優しさについて言っています。しかしながら、柔和と優しさは人格化されていません。しかし、ここでキリストの思いはパーソンのようです。あなたはキリストの柔和とキリストの優しさがあなたの中に住んでいるとは言えません。パウロはこの表現を用いていません。むしろ彼はキリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさいと言います。これは実際的に言って、キリストのパーソンは彼の思いの中で表れることを意味します。私たちは実際的なキリストを取らなければなりません。彼は生きておられ、彼の思いも生きていて、私たちが彼に開くのを待っておられます。

いったんキリストの生きている思いを私たちの中で思いとするなら、この思いは私たちを造り変えます。**エペソ 4:23** は、私たちの「思いの霊の中で新しくされ」と言い、**ローマ 12:2** は、「思いが新しくされることによって造り変えられなさい」と言います。新しくされた思い、霊を伴った思いは、キリストの思いが住んでいる思いです。キリストの中にあつたこの思いは造り変えられた思い、新しくされた思いです。私たちの中にキリストの思いを持つことは、私たちの造り変えのためです。私たちは外側でキリストの足跡に倣うのではなく、キリストの生きている思いを私たちの内側で思いとし、造り変えていただくのです。

適用:青少年・大学生編

キリストの思いがキリストであるように、あなたの思いはあなた自身です。ですからあなたが思いの中で何を考えているかは、極めて重要です。あなたはあなたの思いを守る必要があります。例えば、あなたは不品行の動画などを見ていると、不品行な汚れた思いで満たされます。暴力的な戦いの動画を見ていると、思いが乱暴な考えで満たされます。わがままで勝手な人を描写した漫画を読んでいると、思いがわがままな考えで満たされます。

また友人との交友関係の中で、神を恐れず、道徳感が希薄で、墮落を愛する人たちとの交流は、避けなければなりません。そうでないと、交友関係を通して、思いが汚されてしまいます。しかし、聖書を読み、御言葉を祈り読みすれば、あなたの思いは聖別され、更新され、造り変えられます。墮落した動画や漫画を読まなくても、また墮落した交友関係を持たなくても、聖書の言葉を読まなければ、あなたの思いは決して更新されることはできません。

毎朝御言葉を祈り読みして、霊が復興され、思いが更新されることは、とても重要です。ある時、あなたは朝ごとの復興で、そんなに復興されていると感じないかもしれません。しかし、あなたは信仰によって、毎朝 10～20 分費やして、「毎朝復興」を続けてください。続けられれば、必ずその素晴らしい効果を実感することができます。まだ実行していない人がいたら、パートナーを探し「毎朝復興」を開始してください。

神の言葉がなければ、容易にサタンの言葉を受け入れ、思いは墮落した思想や消極的な思想で満たされません。あなたは自分でサタンに勝とうとしてははいけません。あなたにはサタンに立ち向かう力がありません。キリストと召会、御言葉と召会生活を送る兄弟姉妹だけがサタンを打ち破ることができます。聖書を読んでイエスの思いを自分の中に取り入れ、謙虚な思いを持って前進すれば、神は必ずあなたを引き上げてくださいます。

1ヨハネ 2:14 若者たちよ、…あなたがたが強くあり、神の言があなたがたの中に住んでおり、あなたがたが邪悪な者に打ち勝ったからです。

祈り:「おお主イエスよ、キリストの思いを私の中でも思いとすることを訓練します。私の思いを汚す動画、漫画、交友関係から私を救ってください。毎朝パートナーと共に神の御言葉に開き、祈り読みすることによって、私の霊が復興され、思いが更新されますように。私の思いをあなたに開きます。キリストの思いが私の思いの中に広がってください！アーメン！」

**Crucial Point②:キリストは、苦難を通して従順を学ばれた。
このキリストがクリスチャン生活の模範である**

OL1:クリスチャン生活の模範は、神・人である救い主です。彼はご自身をむなしくし、ご自身を低くし、そして神によって高く引き上げられ、栄光が現されました。**ピリピ 2:5** キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしなさい。6 この方は、神の形の中に存在されますが、神と等しくあるのを固守すべき尊いこととは見なさず、7 かえってご自身をむなしくし、奴隷の形を取り、人の姿になられて、8 人としての有り様で見いだされ、ご自身を低くして、死にまでも、しかも十字架の死に至るまでも従順になられました。9 それゆえに、神もまた、彼を高く引き上げ、そして、あらゆる名にまさる名を彼に与えられました。

私たちは人です。私たちにとって服従は簡単です。私たちはへりくだる限り、服従することができます。しかし、主が服従することは簡単なことではありません。主の服従は、主が天と地を創造することよりもっと困難です。服従するためには、主は栄光や、力や、地位や、主の神性の中のかたちなどのすべてから、ご自身をむなしくしなければなりません。彼はまた奴隷の形を取らなければなりません。そうしてはじめて、彼は服従の資格を受けることができました。こういうわけで、服従は神の御子によって創造されたものです。

もともと、御父と御子は同じ栄光を分かち合っておられました。主が地に下って来られた時、一方において主は

権威を捨てられました。そして他方において、主は服従を学ばれました。彼は奴隷となることを心に定め、人として時間と空間に制限されるようになりました。しかし、これですべてではありません。主は自らへりくだって従順になりました。神たるかたにおける従順は、全宇宙の中で最も驚くべきことです。主は死にまでも、十字架の死に至るまでも、苦痛と恥辱の死に至るまでも従順でした。ついに、神は主を最高にまで高く引き上げられました。自らへりくだる者は、高く引き上げられます。これが神の原則です。

ヘブル 5:8 は、主は苦難を通して従順を学ばれたと告げます。苦難は主に従順をもたらしました。真の服従は、苦難にもかかわらず、依然として従順がある時に見いだされます。一人の人の有用さは、彼が苦しんだか否かにあるのではなく、苦難の中で従順を学んだかどうかにあります。神に従順である者だけが有用です。もし心が柔らかくにされていないなら、苦難は去らないでしょう。私たちの道は、多種多様な苦難の道です。安逸と享楽を渴望する人は、役に立ちません。私たちはすべて、苦難の中で従順であることを学ばなければなりません。主が地に来られた時、従順を携えて来られたではありません。正確に言うならば、主は苦難を通して従順を学ばれたのです。

救いは喜びをもたらすだけではありません。それはまた服従ももたらします。もし人が喜びだけを求めているなら、彼の経験は豊富にはならないでしょう。服従する人たちが、救いの豊満を経験するでしょう。

適用: 在職青年・大学院生編(1)

I ペテロ 5:5 同じように、若者たちよ、年長者たちに服従しなさい。またあなたがたはみな、互いに謙遜の帯を締めなさい。なぜなら、神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。6 ですから、神の力ある御手の下にへりくだらされなさい。それは時至って、彼があなたがたを高く上げてくださるためです。

キリストは人となり、地上で生活しておられた時、完全に御父に服従されました。彼は十字架の死に至るまで御父に服従されました。この服従はキリストが創造したものであり、服従はキリストです。一方、サタンは高ぶりのゆえに天使長から神の敵に墮落してしまいました。「高ぶるものは神に敵対し」とは、実は高ぶりが神の敵サタンから来ており、サタンであるという意味です。墮落のゆえにサタンが肉の中に住んでいるので、思いを肉に付けると人は高ぶります。しかし、思いを霊に付けるとキリストと一つになり、へりくだり服従することができます。

人は容易に高ぶります。例えば、会社で困難に出会った時、主に祈り、兄弟姉妹に祈っていただきます。主と召会のゆえにその切り抜けることの難しい問題を突破しました。その後、人はキリストと召会の恩を忘れて高ぶり、自分の力で突破したかのように思います。実はこのような思想は悪魔的であり、サタンから来ています。このような時、あなたはすぐに、「私はキリストと兄弟姉妹のゆえにこの難しい問題を突破することができました」と人の前で証しすべきです。人の性質は墮落しているのです。早く宣言しなければサタンがささやいてきて、あなたを高ぶるように導きます。ですから、あなたはできるだけ早く主の恵みを宣言することで、サタンの誘惑を断ち切る必要があるのです。

祈り: 「おお主イエスよ、私を悪魔的な思想、あらゆる高ぶりから救ってください。思いを肉に付けると、サタンがささやいてきて、サタンの言葉を受け入れ高ぶってしまいます。主の恵みによって成功したとき、思いを霊に付けて、キリストと一つになり、へりくだり、主に服従します。そしてすぐに主の恵みを証しし、宣言し、私を高ぶらせるサタンの誘惑を

断ち切ることができるよう！ 私はキリストを模範とし、苦難を通して従順を学びます」。

Crucial Point③: 主の回復の中の私たちの緊急の必要: 十字架につけられた生活をして復活の力を経験する

OL1: 私たちは十字架につけられた生活をするによって、復活の力を経験することができます。エペソ 1:20 神は、その力強い大能をキリストの内に働かせて、彼を死人の中から復活させ、彼を天上でご自身の右に座らせ、21 すべての支配、権威、力、主権、そしてこの時代ばかりではなく、来たるべき時代においても唱えられるあらゆる名を超えて、はるかに高くされました。22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました。OL2: 地上の最高の生活は、十字架につけられた生活です。私たちが十字架につけられた生活をするときはいつでも、神は私たちを復活の中へともたらします。ピリピ 3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、11 何とかして、死人の中からの格別な復活に到達するためです。

OL3: 私たちが、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、十字架につけられた命としてのキリストを、私たちの日常生活の模範とするとき、キリストは私たちの日常生活の中で高く上げられます。

今日の主の回復の中で、私たちの間には緊急の必要があり、それはキリストを私たちの模範として経験することです。私たちは、十字架につけられた生活としての彼を経験することを、真剣に求める必要があります。そのような生活は、競争や虚栄の生活とは完全に相対して立っています。私たちは召会生活で、私たちの模範としての十字架につけられた生活を取るか、それとも自動的に競争と虚栄の生活をするかです。第三の道はありません。…ここでの結果は極めて厳粛です。私たちは自分に正直であり、召会の中でどのような生活をしてきたかを考える必要があります。もし召会生活の中で過ごしてきた時間を回顧してみるなら、十字架につけられた生活をあなたの模範としなかった時はいつも、虚栄のために競争の生活をしていたことを見るでしょう。

この生活は、ご自身をむなしくし、ご自身を低くした方であるキリストご自身です。この十字架につけられた生活を私たちの模範とすることは復活の門を開き、私たちを復活の力の中へもたらします。高く引き上げることは神からであり、決して競争や虚栄の道によって来るものではありません。虚栄を求めれば求めるほど、私たちの状態はますます恥ずべきものとなるでしょう。虚栄を追い求めることは、全く栄光ではありません。それは恥です。同じように、私たちが人と競争し合っている時、その結果は決して高く引き上げられることはありません。必然的にその結果、私たちは低くされます。地上での最高の生活は、十字架につけられた生活です。

聖徒たちはしばしば弱さを訴えます。十字架につけられた生活を模範としない時はいつも、私たちは弱いのです。もしあなたが家庭生活、日常生活、召会生活の中で弱いなら、それはあなたが十字架につけられた生活をしていないこと、それゆえに復活の力の中にいないことを示します。…私たちが復活の力の中に入る入り口は、十字架につけられた生活です。ピリピの聖徒たちに関するパウロの期待は、彼らがこの十字架につけられた生活をし、そして復活の力を経験することでした。私は召会生活の中にいた何年かの間に、虚栄のために競争心の中にあつた人たちの多くの事例を知りました。例外なく、そのような競争心かられた人たちはみな、下り坂を落ちて行きました。召会生活の中で競争心を持つことは絶対に愚かです。私たちはこれを、蛇を恐れる以上に恐れるべきです。

ピリピ 2:3 何事も、自分本位の野心から、また虚栄からするのではなく、むしろ謙虚な思いで、互いに他の人を自分自身よりすぐれていると思いなさい。

適用: 在職青年・大学院生編(2)

イザヤ 14:13 おまえは心の中で言った、「私は天に昇ろう。私は神の星の上に、私の座を高く上げよう。私は北の果てにある集会の山に座ろう。14 私は雲の高い所の上に昇ろう。私はいと高き方のようになろう。」

15 しかし、おまえはシェオール(陰府)に、穴の奥底に落とされる。

サタンの反逆の目的は、自分を高くし、神と等しくなろうとしたことです。人の墮落の後、サタンは人の肉体の中に住むようになりました。ですから、サタンは外側で活動しているだけでなく、人の肉の中でも活動しています。人の野心、競争心、虚栄(Vainglory)は外側のサタンではなく、肉に住んでいるサタンから来ます。サタンは神と競争しようとしてきました。あなたが野心、競争心、虚栄に従って生きている時、それは思いを肉につけ、サタンと一つになった状態です。あなたは外側で活動するサタンよりも、肉の中のサタンに、より警戒する必要があります。サタンはあなたの中にいるので、あなたと極めて近く、あなたが神のエコノミーに沿って生活しないように絶えず働きかけているのです。

ローマ 8:6 肉に付けた思いは死ですが、霊に付けた思いは命と平安です。7 なぜなら、肉に付けた思いは神に敵対するからです。それは神の律法に服従しないし、服従することもできないのです。

例えば、あるプロジェクトや上司あるいは同僚は、積極的な目的をもって、あなたのために神によってアレンジされました。しかし、あなたの天然の人はそのプロジェクトや人を好みません。あなたの肉の中に住んでいるサタンはこの時、あなたにささやき、彼らを憎ませ、彼らとの競争心を掻き立てます。いったん人の中にこのような競争心を持つとそれを取り除くのは、大変困難なことです。このような時、競争心の中で進むと、神を逆恨みし、大混乱と死の中に落ち込んでしまいます(実際、このような状況は多く存在します)。あなたはその競争心が肉に内住するサタンからであることに気づいてください。そして「サタンよ、退け！」と宣言し、肉を十字架に付け、復活の中で前進してください。

祈り:「サタンよ、退け！ おまえは外側だけでなく私の肉の中で働いており、特に私の競争心を掻き立てて、同僚や上司を憎ませている。おお主イエスよ、私は今、思いを霊に付け、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給によって、十字架につけられた命としてのキリストを私のビジネス・ライフの模範とします。その霊により、肉を十字架に付けて、復活の力を経験します。主の貴い御名の中で祈ります。アーメン！」

高い福音 第13課 主イエスは罪人の友である(下)

マタイ 11:19 人の子が来て、食べたり飲んだりすると、『見よ、食をむさぼる者また大酒飲み、取税人や罪人の友』と言う。しかし、知恵はその働きによって義とされる。

救いは個人的でまた主観的な経験である(2)

救いは理解や意志の問題ではありません。私たちはすでにこのことを見てきました。救いは神と出会うことです。すなわち、人が救い主キリストと直接の接触を持つことです。そこであなたは私に尋ねるでしょう、人が神と接触するために最も基本的な条件は何でしょう？

私は種まきのたとえを用いて答えます。聖書は明らかに、神が私たちに要求する一つのことを言っています。

「良い地に落ちたものとは、気高い(別訳—正直で)善良な心で御言葉を聞き、それをしっかりと保ち、忍耐をもって実を結ぶ人たちである(ルカ 8:15)」。神が人に要求されるものは「正直で善良な心」です。良いのは正直であるからです。人が救われることを望もうと望まないと、それは問題ではありません。また理解しようと理解まいと、それも問題ではありません。もし、人が救われるために神に対して正直になるなら、神は彼に会うことができます。

罪人の救いに関する基本的な条件は、信仰でも悔い改めでもなく、ただ神に向かう正直な心です。神は罪人がそのような態度で来ることだけを求めておられます。多くの偽りのただ中にある「正直さ」というその場所に、良い種は落ちて実を結ぶのです。二人の強盗が主と共に十字架につけられ、彼らは全く欺いた人でした。しかしそのうちの一人は、少しだけの真実な願いがありました。宮で祈っていた取税人はよこしまな男でしたが、彼も自分の罪深さを知って、神にあわれみを請うという正直さがありました。

これらの事例に見られるように、私たちはすべての罪人に、正直な心を持ってひざまずいて祈らせ、自分がどのような状態であるかを率直に主に話すように励ますべきです。クリスチャンとして、私たちは主の御名の中で祈らなければならないと言われています。私たちは、これは一種の形式的な祈りではないことを理解しています。そうではなく、それは彼の行動を信じることです。しかし罪人の場合は異なっています。というのはイエスの御名によらないで、神が聞かれる祈りがあるからです。使徒行伝 10:4 では御使いがコルネリオに「あなたの祈りとあなたの施しは、神の御前に立ち昇って覚えられている」と言っています。もし心からの真実な叫びがあるなら、神は聞かれます。罪人の心は神に触れることができます。

主は近い

ペテロによって引用されたヨエルの言葉に、「**主の御名を呼び求める者はすべて救われる(使徒 2:21)**」とあります。このことはどうして可能なのでしょうか？ 理由は、神はもう一つの(同じ預言からペテロによって引用された)約束、すなわち「**私の霊をすべての肉の上に注ぎ出す(2:17)**」を成就されたからです。聖霊がすべての人類の上に注がれているので、呼ぶだけで十分なのです。

私は宣べ伝える時、聖霊はその伝える相手の上にあるといつも信じています。聖霊が未信者の心の内側にあるというのではなく、外側にあると言っているのです。聖霊は何をしているのでしょうか？ 待っているのです。彼らの心の中にキリストをもたらそうと待っているのです。聖霊は福音を聞いている人の心に入ろうと待っているのです。聖霊は光のようです。窓のブラインドを少しでも開ければ、光は部屋いっぱい差し込み、内部を照らします。神に向かったただ心から呼びさえすれば、その瞬間に聖霊は入り、罪の自覚と悔い改めと信仰という聖霊の造り変える働き、すなわち再生の奇跡が始まります。

ああ、私たちの神はなんとすばらしいことをなさるのでしよう！ あなたが福音を宣べ伝えに出て行く時、神は生きた神であって、あわれみを施す準備ができています。すなわち人の状況が今より良くなるかと悪くなるかと、神の救いを妨げません。神が求められるものは、ただ「正直で善良な心」だけです。そして、聖霊がここにあり、力を持って人の心を神へ向かわせるように働いていることを、決して忘れないでください。

詩歌:719 福音 — 導く勧め